

特集 平川ねぶた

今年は新型コロナウイルス感染症予防のために、ねぶたの運行ができなくなりました。毎年の夏の風物詩がなくなり、本当に残念ですが、少しでも皆さんがねぶたの気分を味わい、来年のねぶたがより楽しみになるように、この特集を企画しました。

来年、みんなで
ねぶたを
楽しむために…



一筆一筆に願いを込めて 「来年、最高の祭りを 楽しむことができるように」

「小さいころからねぶたが好きでした」

小学校の夏休みの宿題では、文房具屋で買った工作用の木でねぶたの骨組みを作っていました。自分が描いた絵を貼った作品を提出したのをよく覚えています。また、小学校五年生から中学校一年生までは子供ねぶたもやりました。そして、当時、書道教室を開いていた父のところに習いに来る絵師の方でも、その姿を見ていたので、その頃からねぶた絵師を意識していたのかもしれない。

中学校二年生のときに初めて地元の団体のねぶた絵を描きました。前に描いていた方からバトンタッチという形で、それ以降、

今もずっとねぶた絵を描いています。東京の大学四年間も、卒業後、埼玉県の教員になってからも、毎年、夏休みにはねぶた絵を描くために地元に戻ってきていました。

「一年を通して世界一の扇ねぶたを楽しんでほしい」

「世界一の扇ねぶた」というだけあって、とにかく紙の面積が大きいので、描くのは大変なところもあります。担当し始めた当初は、サイズは大きいのに絵を細かく描きすぎて、出来上がったものを見たら、ちつとも大きく見えなかったこともあります。アトリエで床に広げて描いているときには分からなくて、骨組みに貼って初めて気づくことも結構あります。この部分が白が多くて寂しいからと、絵を貼った後に馬の毛を描き足したこともあります。

▼コロナウイルス退散を願い、アトリエで鍾馗像を題材にねぶた絵を描く西谷さん。

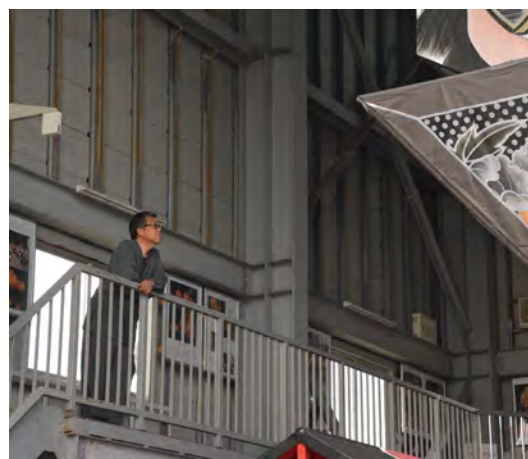
世界一の扇ねぶたは水墨画調です。墨の濃淡で色彩を表現するのは至難の業ですが、墨を使うことで、退色を防ぎ、染料を使ったときよりも一年を通して良い状態で楽しんでもらえると思います。

「来年のねぶた祭りを楽しむために今は自粛を」

とにかく一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束してほしいですね。

来年はぜひ祭りをやりたいと思うのですが、第二波、第三波がくるという話もありますし、いつまでも引きずらないでほしいですね。来年無事に開催するためにも、今はしっかりと自粛をしないとけないと思っています。この自粛期間にやることは、第一に実力を蓄えることです。そして第二には道具のメンテナンス。今やるべき準備はしっかりとしておくと思います。

ねぶた絵は自分で描いて終わりじゃないんです。絵を見た人や子どもたちの反応を見るのが、絵を描き続けるモチベーションになっています。今描いている絵も来年は見て楽しんでもらえる機会があれば嬉しいですね。



Profile

にしや しょうせん
西谷 昇仙 さん

書家・ねぶた絵師・青森山田高校教諭。昭和33年11月30日生まれ。

小学校4年生からねぶた絵を描き始め、中学校2年生で絵師として初めて大型ねぶたを手掛ける。

ねぶた絵師 八嶋龍仙氏に師事。平成20年から10年以上にわたり、世界一の扇ねぶたの絵を手掛けている。



平川市のねぶたには それぞれの想いが詰

ねぶたにかける想いを伺いたくて、平川市のねぶたに関わっている皆さんに集っていただきましたの上で上がっている方、ねぶたを制作している方など様々です。ねぶたに参加した理由や役割の熱い想いは皆さん同じでした。沢山のお話が聞けて、楽しいインタビューとなりました。

みなさんのねぶた歴を 教えてください!

後藤さん 10年くらい前に友人に誘われたのがきっかけです。担ぎ手として参加して11年になります。

小野さん 小学校の頃から参加はしていたんですけど、中学校に上がって一旦部活があるのでほとんど参加しなくなりました。そのあと成人して7、8年してから、仕事も落ち着いてきたので会に入ってみるかなあ〜って入ったら、気がついたら会長になっていました。

入江さん ねぶたを始めて11年。少しでもねぶたで会のためになればいいなと思って参加しました。

水木さん 私は20年くらいです。こどもの頃からねぶたはずっと参加していました。平成3年の台風19号で町居からねぶたが出せなくなったので、ねぶたをやりたかったけど平成11年くらいまで休んでいました。復活したときにまたやりたいということで参加して、それから今まで続けています。

工藤(渚)さん 小学校から高校までねぶたに参加していて、高校終わってからは一度離れたんですけど、また囃子やりたいなと思って参加し始めて、それから4年くらいです。

工藤(聖)さん 川柳っぽくまとめてきちゃったんですけど、披露していいですか?(笑)
「気がつくと 囃子にさそわれ 20年」

皆さん (*◡◡*)オオオ

丹代さん ただ出てるだけだったら35年くらい。年齢イコールねぶた歴な感じです。囃子を始めたのは小学校5年生からで、高校卒業したあたりに囃子方の会を作って、平成町のねぶたに専属で参加し始めました。囃子の会としては去年で15周年です。

【市】 小さいときには大人に背負われながら参加していたり?

丹代さん もう、抱っこされて出てましたね(笑)
ねぶたに参加しないのは今年くらいです。

一戸さん 私もそんな感じですね。赤ちゃんのときの記憶はないんですけど、35年くらいです。小さいときに抱っこされてねぶたに出ている記憶はあります。その頃は綱を引っ張って、ただ「楽しい楽しい」って言って、小学校に上がったなら笛吹いたり太鼓叩いたりして「楽しい楽しい」って参加して、そのあとは歳をとるに従っていろんなことやって今に至る感じです。今年初めてねぶたがないので、夏に何も無いっていうのは初めてですね。



まっている

た。話を伺ったのは、囃子方、ねぶたはそれぞれ違って、ねぶたへかけ



どんな想いで今までねぶたに携わってきましたか？

後藤さん 南田中ねぶた会は子ども会としてのねぶたもやっているのですが、子どもたちが大きくなってねぶたから一回離れても、大人になって戻ってきてもらえるように関わっていきたいです。

小野さん やっぱり少子化の影響からか、参加する子どもの人数は年々減ってきています。中学生になると、部活もあるし参加できなくなる人もいるかもしれないですね。やっぱり10年くらい前と比べると半分くらいに減ったように感じます。

【市】 そんな中で会として今後やっていきたいことはありますか？

小野さん もちろん運行するためには子どもたちの参加も必要なんですけど、その前に金屋は人形ねぶたなので、制作の大変さはあります。自分たちは今40代前半だけど、その上っていえばもういないし、(年齢が)下でもいいんですが、中間の年代の人たちにも制作についてや、いろいろなことを一から十まで教えていきたいです。自分たちもまだ手探りだし、新しい人に声をかけても、なかなかうまくはいかないですが、それでも会員は増えてきています。

入江さん 平川市で一番(大賞)を取りたいです!!
(`・ω・´)ｷｯ

水木さん 若いときは、自分が楽しめれば良いと思って参加してたんですけど、会長が6月頃からいろんなものを制作していて、その作業に自分も毎日出て作っているうちに、「ああ、こうやって自分たちでねぶた作って運行してるのいいなあ」って思えるように変わってきて、自分が楽しむだけでなく周りを見せて楽しませる面白さも感じています。今の目標は観客を巻き込んで平川市のねぶたまつりを楽しんでもらいたいっていうのが一番ですね。



工藤（渚）さん ねぶたって男子っていうイメージがあるんですけど、柏木町の太鼓は大太鼓があって、女子も叩いているので、自分も若い女子たちに教育する立場になりたいなあって思って取り組んでいます。女子でも来やすい環境を作ってあげたいし、ねぶたの制作も女子だからできることをやりたくて会員になったところもあります。これからは女子の会員を増やすことで盛り上げて、柏木のねぶたをよくしていきたいと思っています。

【市】 ちなみに女子で「太鼓やりたい！」って方はいますか？

工藤（渚）さん 高校生とか、社会人でもやりたいてくる女子はいます。

工藤（聖）さん 「思いより 重い思いを おもしろく」 意味は深く聞かないでください（笑）

【市】 工藤（聖）さんは運行のときは何の役割をされているんですか？

工藤（聖）さん 最初は笛と鉦（かね）をやっていたんですけど、ここ4年くらい太鼓を叩いています。

【市】 囃子ってなかなか人数揃えるの大変ですよ。

工藤（聖）さん そうですね。今は子どもたちも囃子を覚えたいってどんどん参加してくれてるので、子どもたちに教える立場になってます。

丹代さん 子どもたちの夏休みの思い出にちゃんと残るようなねぶたにしたいって思いと、それからこれは自分の携わってる役割の話ですけど、平成町の囃子方のメンバーは、「登山囃子」とか「獅子踊り」とかの囃子をやっている人がほぼ全員なんです。それぞれが日々技術の向上を目指して練習しているので、それをねぶたに活かすときに、ただ運行して騒ぐんじゃなくて、いい演奏をしてねぶたの運行で活

かせればいいなというテーマで毎年取り組んでいます。

【市】 どのくらいの期間練習するんですか？

丹代さん 1年中、毎週金曜日に練習しています。盆正月もずっとです。学生の部活よりもハードな感じしますね。

一戸さん 昔は自分が楽しむためになって感じだったし、今も自分が楽しむためにやってるんですけど、それよりも子どもたちが夏休み中にみんなで会う機会を作ってあげたいです。夜に集まって囃子やりたりとか制作をしたりとか、夜にねぶたの周りで遊ぶのが自分もずっと楽しかったので、その場所を作りたいと思っています。あとは、夏はいつもねぶたありきで生きてるようなものなのですが、「なんとしてもやらねば！」というよりは自然に始まるって感じで参加してます。

【市】 子どものときに体験した楽しかった思い出は、ずっと覚えているので大事ですよ。

一戸さん やっぱり県外に出て行くのであれば、子どもたちにはねぶたを経験してから、行ってほしいです。大切ですよ、小さいときに体験できることって。

平川市のねぶたの魅力は？

後藤さん やっぱり世界一の扇ねぶたの大きさと、各団体の囃子も速さとカリズム感が独特で、見てる人を飽きさせないところが平川市のねぶたの魅力だと思います。

【市】 南田中のねぶたの魅力は？

後藤さん やっぱり担ぎねぶたですかね。多いときは30人くらいで担ぐんですが、一番多いときだと



50人くらいでした。

小野さん やっぱり活気があると思うんですね。囃子に力を入れてる人だったり、踊りに力を入れてる人だったり、いろんな人がいるので楽しめます。本体が人形ねぶたっていう団体もありますよね。

【市】 金屋同志会の一番の魅力というやはり人形ねぶた？

小野さん そうですね。それと囃子です。囃子で受賞したりとかはないんですが、特に力を入れてやっているの、そういうところも見てもらえればと思っています。

入江さん 他の地域のものに比べて運行の距離が短いかからこそ出せる活気ですね。そしてやっぱり、見ている人たちもやってくる人たちも飽きずに終わるところじゃないでしょうか。

水木さん みなさんのおっしゃったのとだいたい一緒ですが、町居ねぶた会の魅力としては、会長の衣装とキマった髪型をぜひ見ていただきたいです！

工藤（渚）さん 各団体の囃子とパフォーマンスです。着ぐるみ着て踊ったりとか、小さい人形ねぶたを配ったりとか、いろいろなパフォーマンスが楽しめると思うので。

工藤（聖）さん 「平川市 進化続けて きたかたち」意味より韻を踏むのに一生懸命になりました。これも意味は深く聞かないでください（笑）

丹代さん いい意味で伝統に縛られていないところです。他の地域では囃子に音響を使ってはいけないとか、公式ではないけど暗黙のルールがいろいろあって、無形文化財だとそういうのが厳しいようです。無形文化財に指定されていないこともあってか、平川市はけっこう自由なので、やりたいことを具現化



できるのはいんじゃないかなと思います。

一戸さん やはり勢いはすごいと思います。各団体が考えた出し物もいっぱいあるし、見る人はめっちゃ面白いと思います。見る人からも声が返ってきて、それで自分たちも元気が出てもっと声を出せたりするような、お客さんも巻き込んで楽しんでる感じがすごい楽しいなと思っています。

来年に向けて、今の想いを聞かせてください

小野さん 人形の形ができて、球（電球）も付いて、台の上に乗っかってるので、来年やるかどうかはわからないけど、ねぶたを完成させて準備しておきます。他の会員と相談して、やってもやらなくても違う形での活かし方を含めて考えていきますし、いつも通りできるのであれば、新しい前ねぶたを作ることも考えています。あとは早くコロナ問題が収束して、いつも通りの日常が戻ってきてくれることを願っています。

入江さん 今年1年は充電して、来年は一番を取りたいです！（`・ω・´）ｷｯ



水木さん ここではあまり具体的に何をやるかは言えないんですが、みんなが驚くようなことを何かやりたいと思っています。そして、いい賞を取りたいのはもちろんなんですが、事故とケガがないように運行することを心がけたいと思います。

工藤(聖)さん 「暗い気分 祭り盛り上げ 2年分」

皆さん (*°□°)(*°□°)(*°□°)オオオオ

丹代さん 今年は合同運行はないですが、大きい太鼓で今も練習していて、いつでも出られるような態勢になっています。町会自体、あまり大きくなくて大きい出し物とかを作ることができないのですが、人は練習すればいくらでも成長できるので、人をメインに頑張っ、1年かけて去年よりもいいものを出せるように頑張りたいと思っています。

【市】 モチベーションの維持が大変そうですね。

丹代さん モチベーションを維持するために練習を

続けて、スイッチを入れっぱなしでいきます。

一戸さん ねぶたの運行がないと1年会わないっていう人もるので、来年またいつものメンバーで、いつも通り楽しくできたらいいと思います。誰一人抜けることなく、1年という期間が空いてなかったかのよういつも通りやりたいです。あとは、みなさんのすごい出し物を楽しみにしていようと思います。



座談会の最後に、ひらかわ連絡協議会のお二人に伺いました。

INTERVIEW

「来年やこれからの平川ねぶたまつりを どんなものにしていきたいですか？」



ひらかわねぶた連絡協議会
会長 後藤貴昭さん

今年から会長を務めることになりました。とにかく平川市のねぶたは面白いので、全国に発信して、もっと観光客に来てもらえるようにしていきたいです。



ひらかわねぶた連絡協議会
顧問 成田一之さん

来年は、1年休んだ分、団体によってエネルギーに差が出てくと思うけど、通常通りの祭りの運行ができるように、維持していきたいし、昨年以上の祭りになるように指揮していきたいです。

今回座談会にご参加いただいた皆さん

ひらかわねぶた連絡協議会 会長 後藤貴昭さん（南田中子供会）、ひらかわねぶた連絡協議会 顧問 成田一之さん（町居ねぶた会）、一戸大輔さん（八幡崎ねぶた同志会）、入江健友さん（鵬友会）、小野敦史さん（金屋同志会）、工藤聖彰さん（尾崎ねぶた同心会）、工藤渚さん（柏木町ねぶた愛好会）、丹代智大さん（平成町会）、水木優さん（町居ねぶた会）

回答者の方以外にも多数の方にご参加いただきました。
お忙しいところ取材にご協力いただき、本当にありがとうございました。